

令和4年度事業報告について

令和4年度の我が国経済は、オミクロン株によるコロナ感染拡大、ロシアのウクライナ侵攻、国際商品相場の高騰、上海ロックダウン、欧米のインフレ加速と景気悪化などにより、想定外の展開となった。年初から春先までは「まん延防止等重点措置」で欧米に比べ脱コロナ／ウイズコロナで出遅れたが、民需を中心に緩やかに持ち直してきている。

そうした中、当協会は、令和4年度も下記のとおり定時社員総会1回、及び通常理事会3回を開催した。また、基幹的分野である業務、海務及び労務の3専門分野を中心とする委員会活動等は対面による開催を行った。

船員採用問題等検討委員会も1回開催し船員採用促進に向けた活動の総括を行った。

1. 会務運営上開催した会議

(1) 定時社員総会

開催回数	1回	出席人数	58名
(第68回)			

(2) 通常理事会

開催回数	3回	出席人数	64名
合計	3回		122名

2. 事業運営上開催した会議等

(1) 業務専門委員会	開催回数	2回	出席人数	64名
(2) 海務専門委員会	開催回数	2回	出席人数	61名
(3) 労務専門委員会	開催回数	2回	出席人数	60名
(4) 機関誌編集委員会	開催回数	1回	出席人数	10名
(5) 各委員会小委員会				
船員採用問題等検討委員会	開催回数	1回	出席人数	16名

3. 事業実施概要

業務、海務及び労務の3専門委員会等を中心に、次のとおり事業活動を推進した。

(1) 専門委員会活動

①業務専門委員会

各地区における曳船事業を取り巻く環境の報告を受け、港湾の機能及び企業運営にかかわる諸問題を討議した。

また、船員採用問題等検討委員会委員長より昨年度までの活動状況と第5回船員採用問題検討等委員会の報告を受けた。

②海務専門委員会

現場におけるヒヤリハット事例を収集、分析し、タグボート作業の安全を推進する活動を継続した。第1回、第2回とも20件のヒヤリハット事例の検討が行われた。また、港湾タグボート係留基地の確保と整備に関する要望を国土交通省港湾局に提出したことが報告され、各地区の状況について意見交換がなされた。

③労務専門委員会

各地区の労務関連情報の交換、労働協約についての意見交換を継続した。船員採用問題については労務問題の一環として船員採用問題等検討委員会委員長より報告を受けた。

相互扶助のための労働災害総合保険団体契約を継続した。

(2) 教育・訓練活動

①技術研修会

協会主催による機関部乗組員を対象とした技術研修会を2回開催し、東日本地区（横浜市で開催、4社10名参加）及び西日本地区（神戸市で開催、3社11名）で計21名が参加した。

②委託研修

海技大学校に委託している研修では、甲板部を対象に「タグシミュレータ研修」（1回）、「タグBRM訓練研修」（1回）、及び機関部を対象に「電気研修（初級）」（1回）、「アーク溶接研修」（1回）、「油圧回路研修」（1回）を実施した。

参加者総数は、参加実績の表のとおり、4社12名であった。

「小型ディーゼル機関開放研修」は今年度も取り止め、となった。

(3) 調査・報告活動

①各種調査

例年のおり以下の調査を実施し、報告書にまとめ、関係専門委員及び会員に配布した。

「曳船燃料油価格調査」、「賃金調査」及び「臨時手当調査」

②「会員・所属タグ一覧表」の作成・発行

令和5年1月1日現在の会員について、組織概要並びに所属タグの現況調査を実施し、同年1月に「会員・所属タグ一覧表」を作成・発行し、会員及び関係先に配布した。

③調査統計報告書の作成・発行

令和4年1月1日現在の会員の運航タグ及び船員関係調査等の集計に基づく、「会員所属タグ調査統計並びに全国港湾入港船舶数抽出値統計」の報告書を同年5月に作成・発行し、会員及び関係先に配布した。

④機関誌「ハーバータグ」等の発行

令和5年1月20日に第52号を発行し、会員及び関係先に配布した。また、令和4年7月、「タグ事業協会だより」をホームページに掲載した。

4. 会員数

令和4年4月1日における会員数

特別会員	10名	正会員	88名	計	98名
------	-----	-----	-----	---	-----

令和5年3月31日における会員数

特別会員	11名	正会員	88名	計	99名
------	-----	-----	-----	---	-----

5. 附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はないので附属明細書は作成しない。

以 上